

# シジミのいる<sup>しん</sup> 宍道湖<sup>じ</sup> を<sup>こ</sup> 守る<sup>まも</sup> ために

漁師さんたちは、島根県水産技術センターの調査やシジミの育ち具合などをもとに、1日の漁獲量(とる量)、漁をする曜日・時間を決めていきます。これは、宍道湖の環境を守り漁を長く続けていくため、漁師さんたちが自分から取り組んでいることです。世界中のラムサール条約登録湿地の中でも注目されている活動です。



## シジミが育ちやすい環境づくり

漁師さんたちは、さまざまな方法でシジミが育ちやすく増えやすい環境を守っています。この活動は、魚やエビなどほかの生き物の住みかを守ることもつながっています。



**湖底耕うん**  
湖の底をたがやす道具「マンガ」

シジミが酸素を取り入れやすいよう、湖の底をたがやします。水の流れをさまたげる水草や、かれた後にシジミをおおって呼吸できなくしてしまう藻などがふえすぎないようにする目的もあります。



**湖底清掃**

ジョレンなどを使って、湖の底に落ちているごみを取り除きます。



**竹林魚しょう**

竹を湖の中にさして林のようにします。シジミの子どもが育つ場所や魚の住みかになります。



**採苗・放流**

シジミの赤ちゃんをつかまえ、酸素が豊富で育ちやすい浅瀬に放します。